

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0773200464		
法人名	医療法人 博文会		
事業所名	認知症対応型老人共同生活援助施設 クレール双葉 A棟		
所在地	福島県双葉郡大熊町大字熊字新町214-1		
自己評価作成日	平成22年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 福島県シルバーサービス振興会		
所在地	福島県福島市中町4番20号みんゆうビル302号室		
訪問調査日	平成23年2月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者本位の生活実現のため、寄り添いながら支援することを心掛けています。余暇時間の活用としてレク活動に力を入れており、季節にあったちぎり絵、飾り物など入居者と一緒で作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1 法人が医療機関であり、広い敷地には関連施設があることから、看護師及び医師が連携してケアに当たっている。利用者は常に適切な医療を受けられる体制となっており、利用者及び家族の安心に繋がっている。
 2 職員の異動は少なく、利用者とのコミュニケーションが良く、管理者を中心に3ユニットの職員が連携を図りながら日常のケアに努めている。
 3 職員は資格取得やケアの向上に意欲的に取り組んでおり、資格取得については法人の支援もある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	馴染みのある地域で暮せるように、入居者本位の生活を心がけ提供している	「明るく ゆったり 住まいづくり のんびり 楽しく 暮らしづくり ～入居者本位の生活をつくります～」と入居者本位の生活を提供することを理念に掲げている。また、全職員が理念の実践に努めているが、地域との関わりが表現されていない。	理念の大切さを理解し、地域密着型サービス事業所として、地域との関連性を重視した文言を取り入れた理念を全職員で作成し、実践されることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は少ないが、地域行事等に参加することで関わりを持っていきたい	利用者が馴染んできた地域の行事である野馬追や地元の祭りへの参加をはじめ、町の行事等に数多く参加し、地域の方々と交流をしている。さらに地域との関わりを多く持つよう全職員で検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方との関わりは少なく、認知症に対しての理解等の働きかけも地域に向けて活かしきれていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	会議で頂いた意見等をもとにサービスの改善、向上に努めている	運営推進会議は定期的開催している。会議では事業所の情報を積極的に公開しており、委員からは質問や提言があり、出された意見は運営やサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政と連絡を取り合いながら協力関係を築くよう努めている	行政担当職員とは事業所の実情報告や利用者の法的相談等を通して、常に連絡し協力関係を築いている。さらに利用者宅の行政担当者とも連携し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修(内、外部)に参加したり身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の弊害を認識しており、拘束のないケアに努めている。日中は玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	日々利用者の虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等へ参加し必要とされる方々へ支援できるように心がけている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に十分せつめいを行い、その他でも不安や疑問がある時にはその都度、相談や説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会は設けては無いが、意見箱を設置したり面会等で家族の意向を聴いたり反映させるよう努めている	理美容院への外出、日用品の持参等、家族が事業所を訪問する機会が多くあり、面会時には面談コーナーなどを利用して、職員も同席し利用者と家族の意向を把握し、サービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングの中で意見交換し、改善策を話し合っている	管理者は職員との意見交換の機会を設けており、常に職員の意向や提言を聞く体制となっている。月例会議等で出された意見等は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境になるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等に参加したり、向上心を持って働くように促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の研修に参加することで交流や情報交換の機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や心配を取り除き、安心して頂けるように信頼関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時など家族との会話から要望等を聴き信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族に対しその時必要なサービスを提供、支援できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、職員が共に生活する者としての関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族の関係を大切にしながら支援していくように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る範囲で関係が途切れないよう対応している	利用者の地域の民生委員や近所の方の訪問を受けている。また、家族の協力を得て、理・美容院や商店等へ出かけ、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の個性を把握し良好な関係を築けるよう仲介に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位の支援が出来るよう常に努めている	日常の会話や行動から利用者の希望や意向を把握しており、利用者の意向を全職員で共有している。また、利用者の立場に立った支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報収集し把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者1人1人の状態の把握に努め、何か変化のあった時には職員間で情報の統一を図っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員1人1人の意見や考えを聴き、それを反映したプランの作成をしている	利用者、家族からの要望や意見を踏まえ、職員の気づき等をもとに、利用者の現状に即した介護計画を作成している。また、日々の介護記録をもとに全職員でモニタリングを行い、介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	情報の共有は出来ているが記録の仕方、内容はもう少し改善、努力が必要と思われる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場、その場で臨機応変な対応が出来るように努力が必要と思われる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の出来ることを活かし、毎日を楽しく生活して頂けるような支援を心掛けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療との連携を図りながら適切な支援が受けられるように努めている	利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医としており、受診には職員が対応している。受診後は家族に報告し情報の共有をしている。法人が医療機関であるので、必要に応じ看護師の訪問及び医師の往診があり、適切な医療を受けられる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で看護職との連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院や主治医と連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や医師と協力しながら、出来る範囲で支援するように努めている	事業所として重度化や終末期に向けた方針を作成し、利用者や家族とは早い時期から話し合っている。重度化した場合には利用者、家族の希望を最優先にし、利用者が安心して終末期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や応急手当の訓練は定期的に行ってはいないので、今後必要かと思われる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中の避難訓練は行っているが夜間想定、火災以外の災害時の訓練は行っていないので、今後必要と思われる	総合防災訓練は年1回実施しており、各棟ごとの避難訓練もそれぞれ1回実施している。夜間を想定した避難訓練は未経験の職員もおり、また、避難訓練時に近隣住民の協力は得られていない。非常時の食料品等は備蓄している。	あらゆる場面を想定した訓練を数多く実施され、全職員が的確に避難誘導できるよう努めてほしい。また、災害時には地域住民の協力が不可欠であることから近隣の協力体制を築かれることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人を尊重した言葉かけを意識し接している	マニュアルを基に研修を実施しており、全職員がケアの中で利用者の気持ちを損ねない対応をしている。また、個人情報等の管理も適切に行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の気持ちを尊重し、自己決定できるよう声かけなど工夫して行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人がその人らしく生活が送れるよう、本人なりのペースで過ごして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みを尊重し一緒に服を選んだり、整容したり日々支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	月に1度は簡単なおやつ作り等を行い、楽しいものになるよう機会を設けている	調理は別の厨房で調理されているが、炊飯は各ユニットで行っており、米とぎや配膳等は利用者が職員と共に行なっている。また、おやつ作り等を各ユニットごとに行い、全員で楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を用いて食事量、水分量を把握し個々にあった対応をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人1人に応じた口腔ケアを毎食後実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を目指した支援を行っている	利用者の水分摂取表や排泄チェック表を活用し、一人ひとりの体調を把握しながらトイレでの自立排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩等の適度な運動を行ったり、医療との連携を図り個々に応じた予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調や希望に配慮しながら支援している	基本的には利用者の希望にそって毎日入浴できる体制をとっている。体調に合わせて入浴チェック表で入浴状況を管理している。体調や気分に合わせて清拭・足湯で対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠して頂けるように環境の整備や温度管理に気をつけている。日中も適度に休息の時間を取り入れている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や看護師とも連携しながら、副作用や用法の理解に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴や性格を参考に出来る範囲での役割を見つけたり、行事への参加、レクリエーション等で楽しく生活して頂けるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望があった時には家族の協力も得ながら対応している	外出は散歩のほか、花見、紅葉狩り等季節の行事や野馬追等の地域の催事には、年間を通して外出の機会を多く企画し実践している。家族の同伴で身の廻り品の買い物や友人宅訪問などもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持の希望があれば出来るだけ支援している。家族と連携をとり状況を共有している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごして頂けるように季節の花や装飾をして工夫している	各ユニットが広い敷地に個別に建設されており、共有空間は広く明るい。陽あたりの良いリビングには季節の花や利用者の作品が飾られている。一段高い畳スペースには炬燵が備えてあり、談話コーナーもある。利用者は思い思いの場所でゆったりと寛げるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人くつろげる場所を見つけ過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	居室にはそれぞれの馴染みの物や使い慣れた物を置き快適な場所になるよう工夫している	居室には、使い慣れた家具等を持ち込み、それぞれが個性的な居室となっている。各居室ともすっきり整頓されている。廊下からの小さい視窓もあり、出入り口を開けないで利用者の状況把握ができプライバシーにも配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で自立した生活が送れるよう、環境づくりに努めている		